

TAKAMATSU STUDIO

---

Mizuki INARI

MON-NAI STUDIO

---

Hiroki KATO  
Manami FUJIWARA

TAJI STUDIO

---

Haruka NAGASE

# 鼓動する大地 — Shelter for IDPs in Pakistan —

遠くパキスタンの地で大地が鼓動する  
 どれだけの年月を経ても 終わることのない争い  
 そして Exodus が現実となった場所

家を追われる人々は 一体何を思ったろう

彼らは歩んだ 自らの足で  
 命の危険に晒されな  
 ただそれだけの場所を求め 長く遠い道程を

漸く彼らが辿り着いた場所には  
 風が吹けば飛ばされる 雨が降れば流される  
 三角屋根のビニールシートが  
 地平線の彼方まで続いていた

還りたくとも 留まらざるをえない  
 いつかの帰郷を望みながら  
 見知らぬ土地で 明日をも知れぬ日々を過ごす

そこには助けの手を差し延べる者もいる  
 遠方の地よりの使者は 彼らの傍に立ち  
 彼らの存在を世界に知らしめる

そう 私たちが彼らを忘れないように

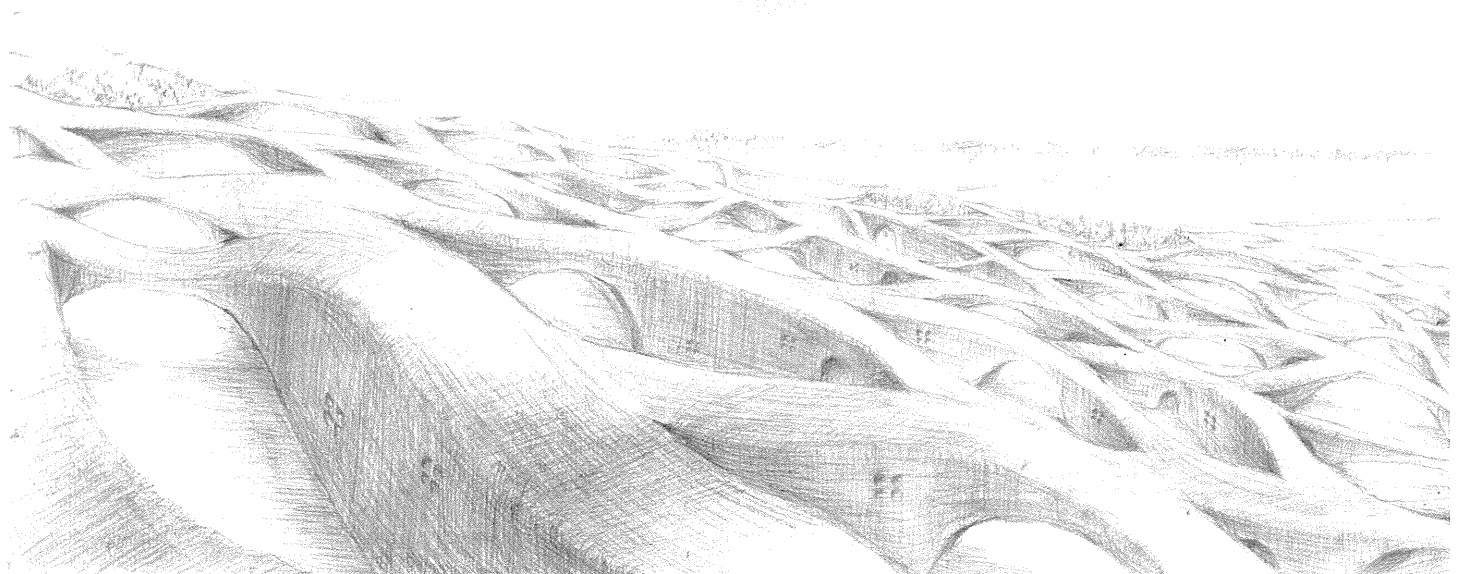
やがて彼らは築き出す  
 自らの手で 自らの場所を  
 ただ雨露を凌ぐだけではない そんな場所を

彼らが築き上げたものは  
 川が流れるようで 大地が脈打つようで  
 土と藁と漆喰とでできたそれもまた  
 地平線の彼方まで続いていた

人々の思いがこの地に息づく  
 築かれたものは彼らの声を代弁する

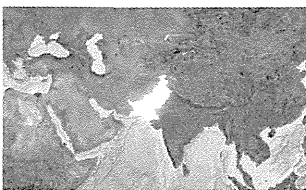
私たちはここに生きている と

彼らがこの地に生き続けるかぎり  
 大地の鼓動が止むことはない



## Site

パキスタン 北西辺境州 ジャロザイ難民キャンプ  
 Jalozai Refugee Camp, North West Frontier Province, Pakistan



## Population

1,000人あたりの人口構成をもとに各機能の必要面積を算出。

Age	0-4	5-11	12-17	<18	18-59	60+	Total
Population	150 (14.4)	200 (12.0)	140 (7.4)	210 (12.1)	230 (15.7)	47 (1.9)	1,000 (100.0)

## Context

ジャロザイキャンプはベシャワール郊外に位置する難民キャンプであり、戦争を逃れてきたパキスタン国内避難民 (IDPs=Internally Displaced Persons) が生活している。2010年4月現在、このキャンプには約106,000人の難民が暮らしており、その多くが狭くプライバシーの保たれないテント生活を余儀なくされている。計画対象エリアでは北に向かってワジ(流れ川)が流れ、そのワジに向かって緩やかに傾斜する土地が広がっている。また対岸には既存街路、灌漑を用いた耕作地がある。ここに難民1,000人のためのシェルターを構想する。

## Zoning + Logistics

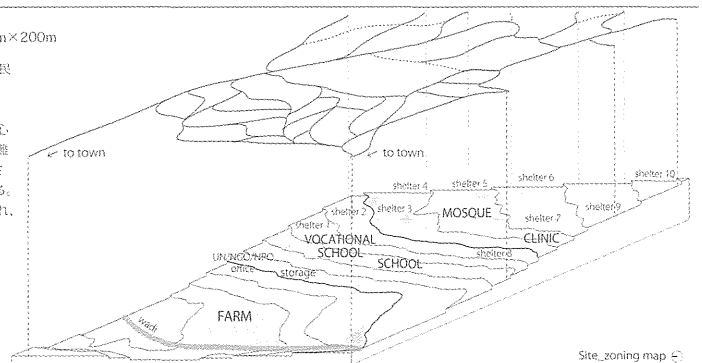
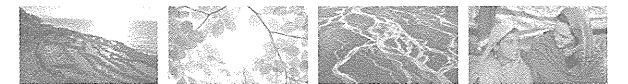
計画対象エリア: ジャロザイ難民キャンプ内 200m×200m  
 200m×200mのうち、さらにワジ(流れ川)以東を難民1,000人のためのコミュニティとして計画する。

ワジ沿いには灌漑を用いた耕作地を確保し、エリア中心部にはモスクと学校、さらに職業訓練学校を据える。難民の住居(シェルター)はモスクを取り巻くように配され、市場(スーク)はモスクの周囲の道沿いに展開する。市街地から供給された物資や食料は倉庫に一時的に保管され、そこから各シェルターへ12戸1へと運搬される。

- フォーム(耕作地/耕作地)
- 住居中心/公共用オープンスペース
- 緊急避難(避難経路も示す)
- 必須必要施設
- ワジ(流れ川)

## Concept

地勢学的特質を生かす上で、傾斜地を利用して農作物を生産する棚田のシステムを参照した。傾斜した地面によって連なる階段状の田圃は、排水・保水・洪水調整機能を持ち合わせている。このシステムをワジ付近ではそのまま農業耕作地として生かし、同時に貯水池を設け乾季に備える。標高の高い場所では棚田の「畦」が高く持ち上がり、その内部に住居や学校、もしくは環境システムといった機能を与える。また、アーチ状に持ち上がった畦の下に影が落ちることで、人々は日差しを逃れてその下で休息をとることができる。



Site\_zoning map

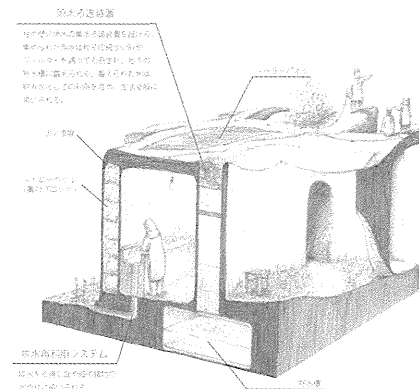


## Environmental System

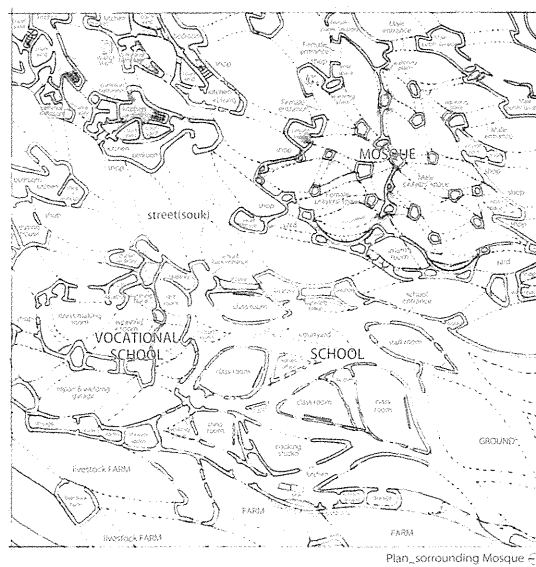
### 自給自足の生活を送るための環境システム

人が生きていくために必要な水。この戦地は乾燥気候に属しており、水はとても貴重な資源となっている。そこではいかに水を多く集めるかが鍵となり、この建築においては雨水を集水・ろ過・貯水・給水するシステムが柱となっている。

素材にはストローペイル(藁のブロック)と土と漆喰と現地調達可能なものを用いており、住居・スクール・モスク等すべて住民たちの手によって作られることを想定する。



## Plan + Program



- シェルター (for 1,000 IDP) → 200 families
    - ・キッチン/寝室 → for each family
    - ・共用トイレ/シャワールーム → for 2-3 families
    - ・共用オープンスペース → for 8-12 families
    - ・共有・共用洗濯場・洗濯機を備える
  - スクール (for 340 IDP children)
    - ・クラスルーム → 5 class rooms + kitchen studio
    - ・集会室
    - ・図書室
    - ・トイレ
    - ・畑/畜産場
    - ・中庭
    - ・クラウンド
  - 職業トレーニングスクール
    - ・トレーニングルーム / 会議室 (漆喰・陶器製模型工場、洋裁・職物教室など)
    - ・レストルーム
    - ・シャワールーム
  - モスク (for 1,000 IDP)
    - ・プレイスペース (for male / female)
    - ・相談室 ( )
    - ・イマーム (imam) ルーム
  - スーク / 市場 / 生鮮食品の店ほか(惣菜店等含む)
  - クリニック (for 5,000 IDP)
    - ・診察室 (for male / female)
    - ・検査室 ( )
    - ・待合室
    - ・レントゲン室・検査室
    - ・スタッフルーム
    - ・エドゥケーションルーム
  - ファーム (農地地的有地・自給用等)
    - ・オフィス (for IFA and NGO)
    - ・福祉支援センター
  - シェルター (for officers and labors)
- Infrastructure**
- ・給水塔
  - ・発電所
  - ・畑/畜産
  - ・ごみ処理場
  - ・貯水塔
  - ・共同洗濯場
  - ・倉庫
  - ・広場

# みんなのいえ

## 一人を結び付ける隙間ー

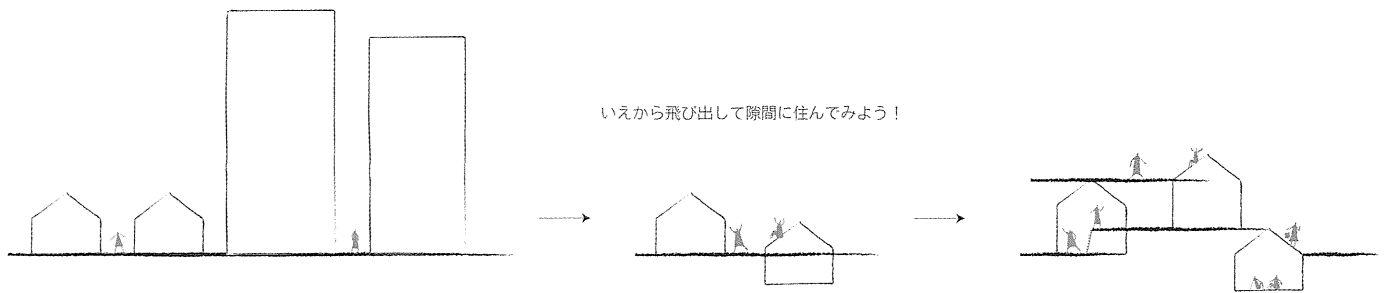
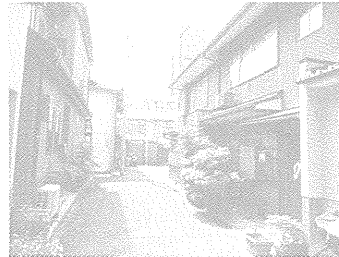
近年人口が急増し、再開発が進む敷地。  
 マンションに住む住人と、地元の住人との融和が課題となっている。  
 高層マンションとの間にできる隙間はただ何もない空間で、両者の区別を鮮明にしている。  
 もっと身体スケールに近く親近感を持つことができるような隙間で都市をつなぐことができれば、  
 そんな隔たりはなくなりコミュニティの結びつきはきっとつよくなるだろう。

所在地：京都市中京区姉東堀川町  
 主要用途：集合住宅（47戸）

## ーダイアグラムー

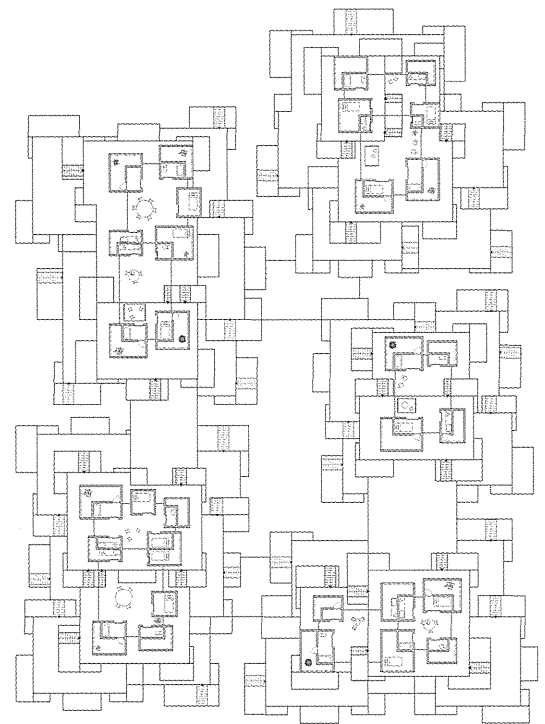
京都には魅力的で多様な“都市であり建築でない”空間が存在する。  
 たとえば、つい中に入りたくなる細い路地、心地よい風が流れる庭。  
 そんな空間には人々の生活が溢れ、行き交う人に安らぎや親近感、活気を与える。  
 何もない空間である隙間には、何物にも代え難いたくさんの意味があるのだ。

人口増加が激しい敷地では高層マンションが林立し、身体スケールに近い隙間は失われる。  
 その代わりにできた隙間はただ何もない空間でしかなく、何の意味も持たない。  
 このような残余の空間に魅力はなく、都市の魅力を喪失させている。  
 隙間が残余ではなく様々な意味を持った空間になれば、都市もおのずと魅力的になると思う。



いえから飛び出して隙間に住んでみよう！

積層することで容積を増やし、隙間を立体的に展開すると新たな空間が生まれる。  
 人の家の屋根の上で暮らしたり、家をシェアしながら隙間に暮らす生活は、  
 隙間の持つ多様な意味を享受しながら高密度に住む新しい都市の姿となる。

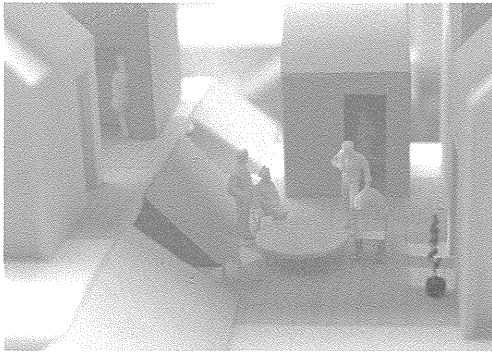


GL Plan 1/800

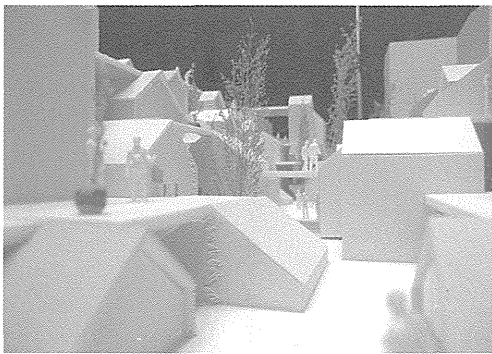
+9000 Plan 1/800



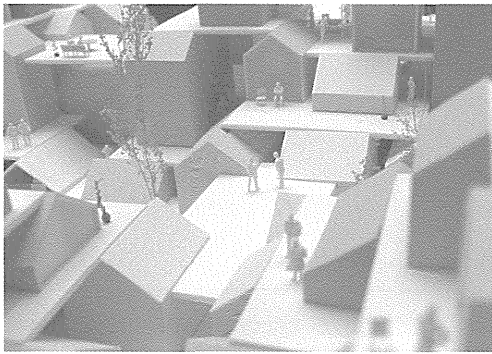
家を飛び出して隙間に住む



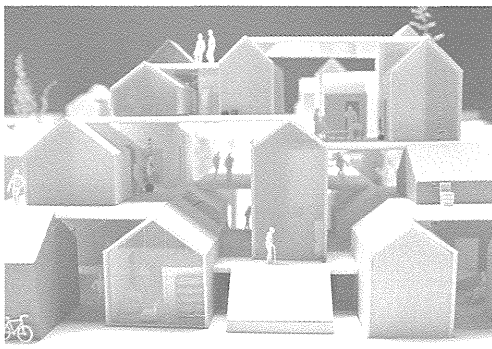
屋根の上に住む不思議な感覚



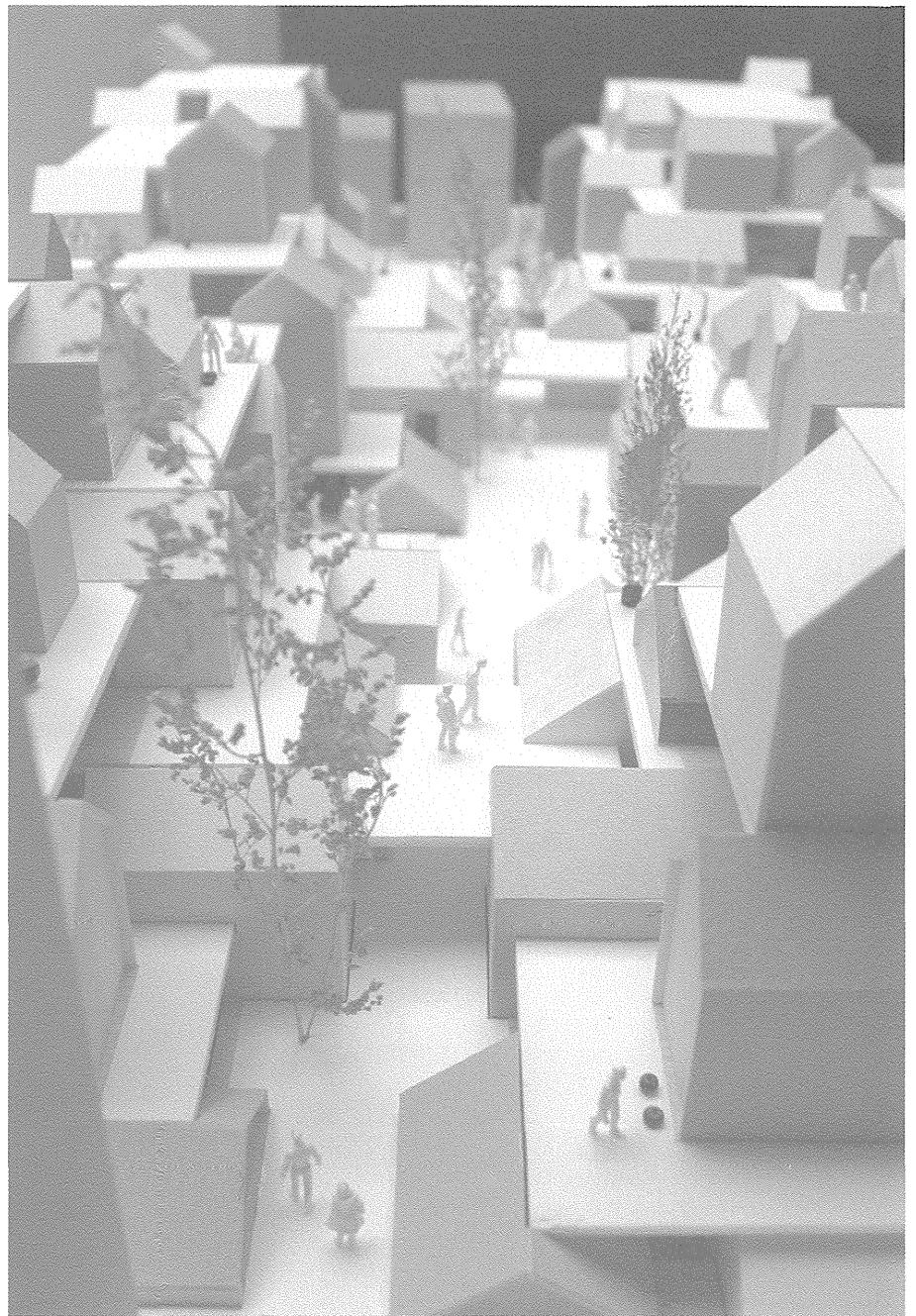
路地のような空間が立体的に展開し各住戸へ導く



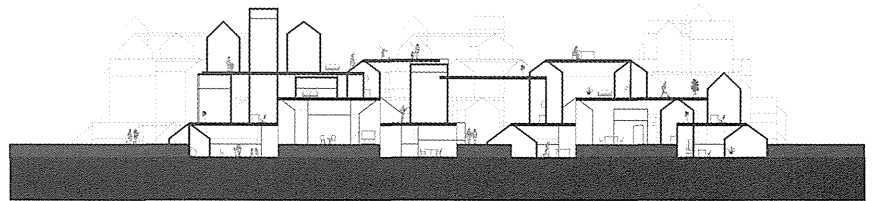
屋根が連なりまるでひとつの地形ようになる



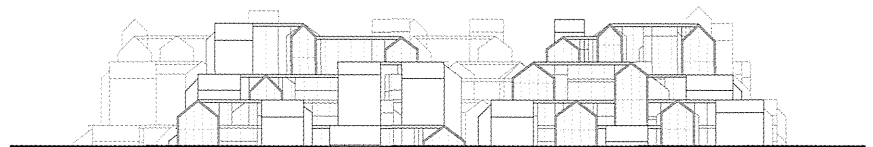
諸機能の入った家が積層しその間に生活があふれ出す



隔たりを生み出すのではなく人々を結びつける隙間



A-A' Section 1/800



West Elevation 1/800



# Swimmy

仕事とは社会の中に自分の存在を位置付けるメディアである。

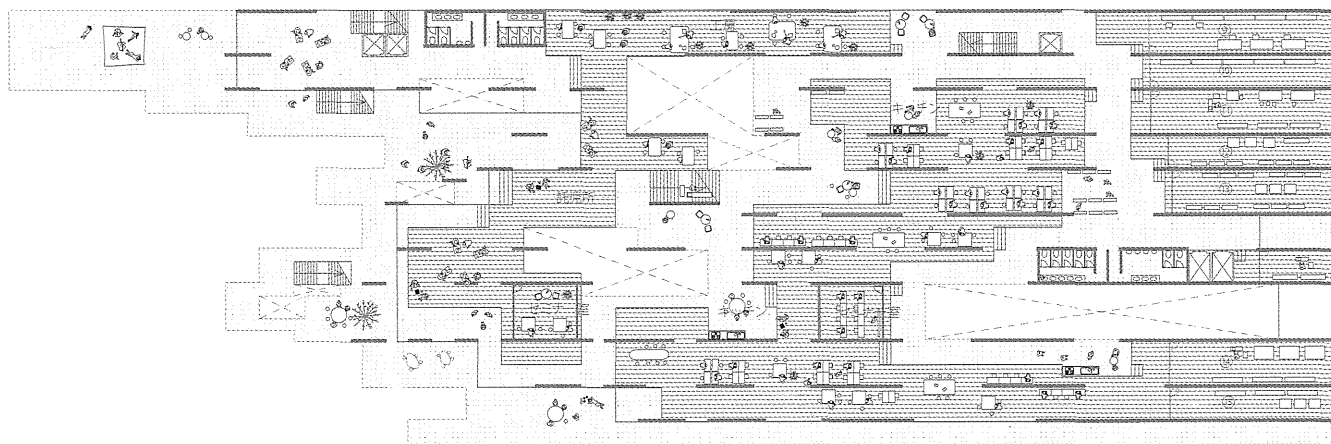
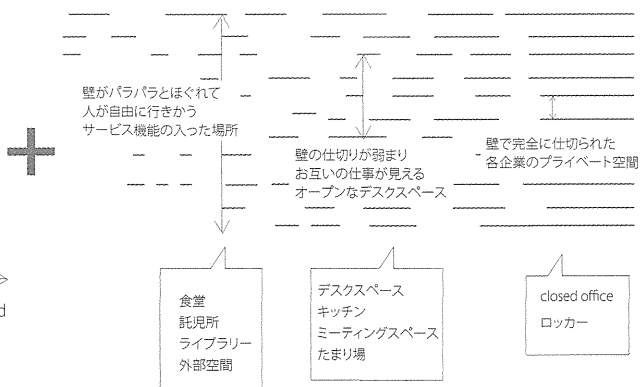
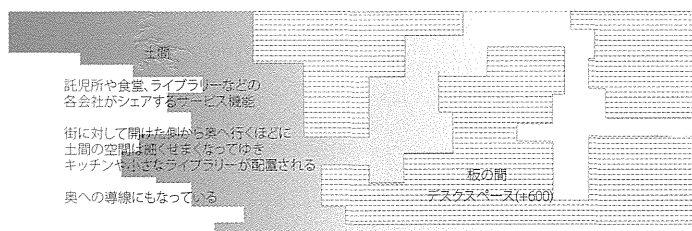
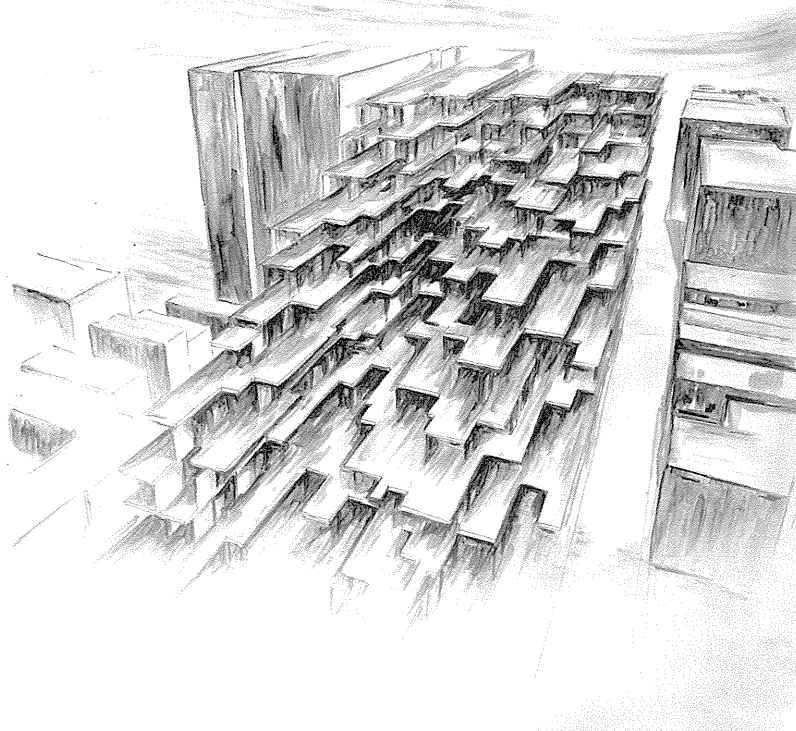
それは単に金銭を得るためだけの手段ではない。

自分が価値のある存在であること、誰かに必要とされていること。

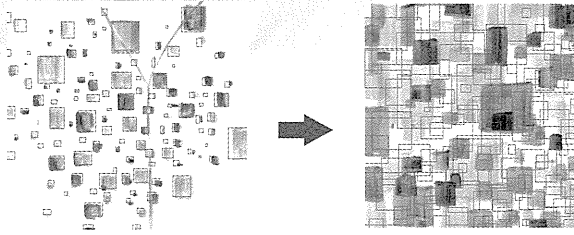
こうした情報を与えてくれる仕事には求心力がある。

人間が社会的な生き物である以上、生涯における「仕事」の重要性は変わることがないだろう。

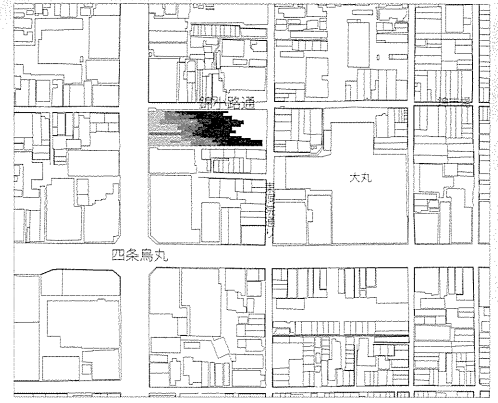
いつでもどこでも誰とでも働くことのできる自由がある場を考える。



1/700 2F plan

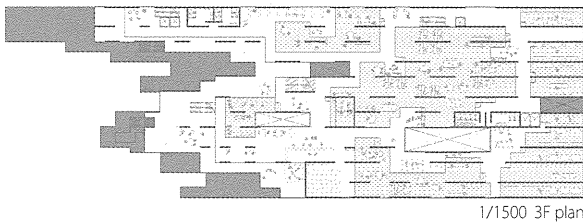
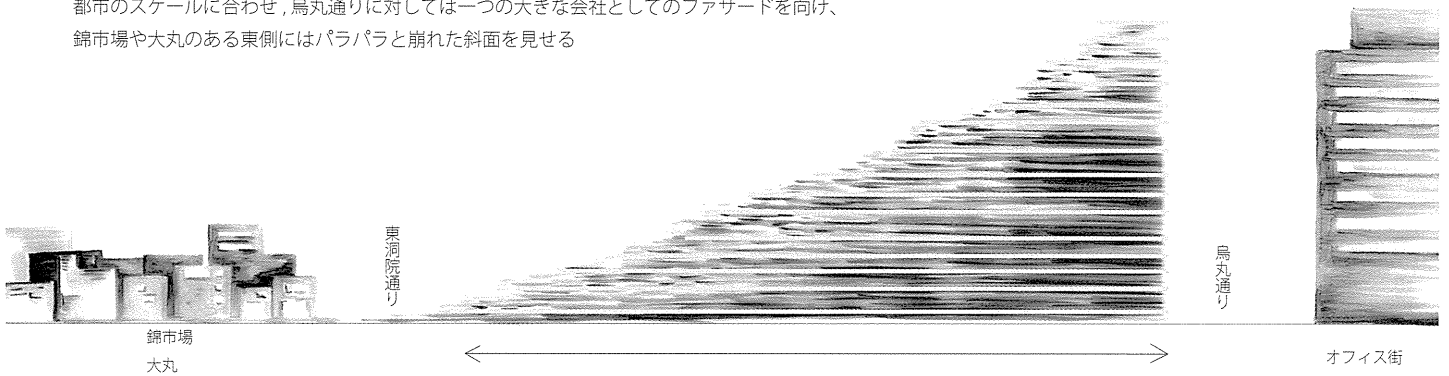


街のあちこちに点在していた小さな会社が集まって、四条烏丸に大きな会社となって現れる  
 小さな企業では持つことができなかった、食堂、託児所、ライブラリー、ギャラリーなどの機能を  
 集合体として大きな会社に化けることで、共有の機能として獲得する。  
 また、多種多様な業種が同じ空間に存在することで、これまで起こりえなかった異業種間の交流が発生し  
 新しいコラボレーションの機会が増えることを期待する。

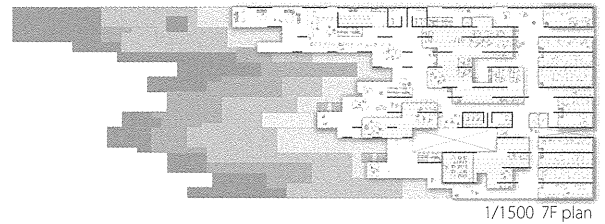


site plan

都市のスケールに合わせ、烏丸通りに対しては一つの大きな会社としてのファサードを向け、  
 錦市場や大丸のある東側にはパラパラと崩れた斜面を見せる



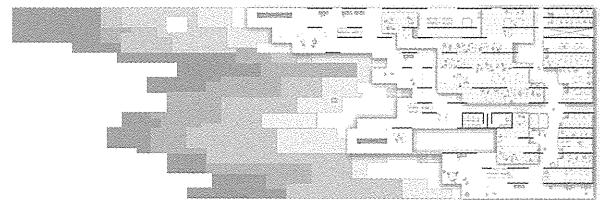
1/1500 3F plan



1/1500 7F plan



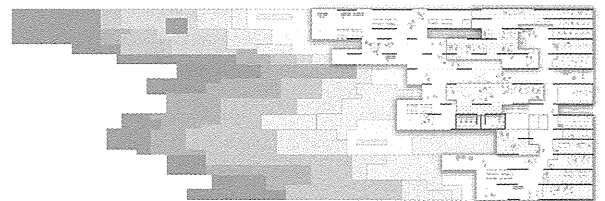
1/1500 4F plan



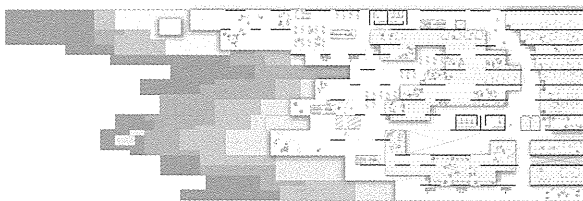
1/1500 8F plan



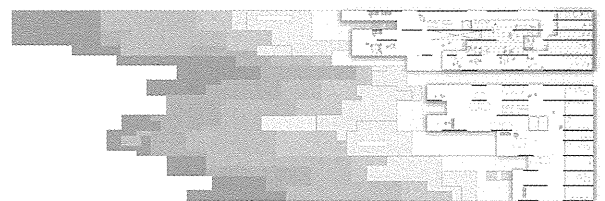
1/1500 5F plan



1/1500 9F plan



1/1500 6F plan



1/1500 10F plan

# Home for children

～不登校児、ひきこもりの子供たちのための児童養護施設～

敷地は宇多野の現在ユースホステルのあるところ  
家庭内に問題をかかえHomeを失い社会へと出られない  
小学5年生から20歳までの児童50人が共に生活する  
子供たちはここから地域の学校へ通ったり  
学校へ行けない子供は施設内の教室で学習する

虐待、育児放棄...

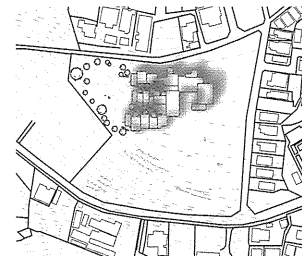
本来子供たちのHomeであるべき家庭内での問題

Homeを失い

ヒトとのキヨリをおき

ひとりぼっちの子供たち

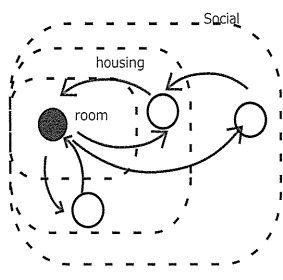
そんな子供たちの「Home」となる



・Home  
Homeは「自分」のもので  
その心理的境界は伸縮性がある

居場所は場所であったり  
人との関係の中に  
たくさんつくり出せる

子供たちひとりひとりに  
RoomというHomeの最小単位を与える  
ひとりの子供が  
同世代、同性、子供、全体の中で  
年齢の変化を伴いながらも  
様々な「場所」で中心となる



「Home」 「→」 「居場所」

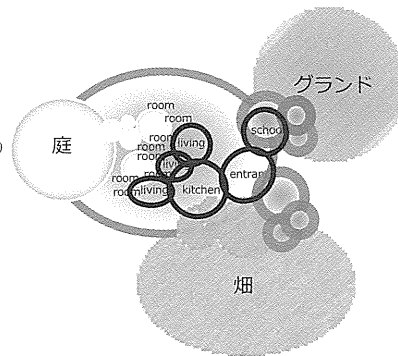
・内と外

庭とグランドと畑という3つの外部  
この3つの外部が  
それぞれ異なる内部をつくる

建築に入り込んだ庭  
この庭は「自分」に帰属する外部であり  
Familyとの共有の庭  
距離のある内部が庭を中心に隣り合う

日常生活スペースとは違うグランド  
このグランドに建築が入り込むことで  
そこは生活スペースとは違う  
空気を帯びる

施設と社会との媒介の畑  
建築と外部が  
お互いに入り込み合うことで  
施設と外部がつながる

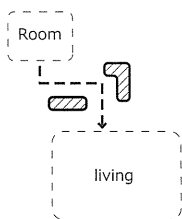


・家具以上建築未満

高さ1800mm  
天井までは届かない  
本棚やクローゼットなどの家具と  
一体となったパーティション

外部には段差なく出られるよう  
敷地の傾斜な高さにあわせたスラブ

ふたつの  
家具以上建築未満で  
内部空間をつくる

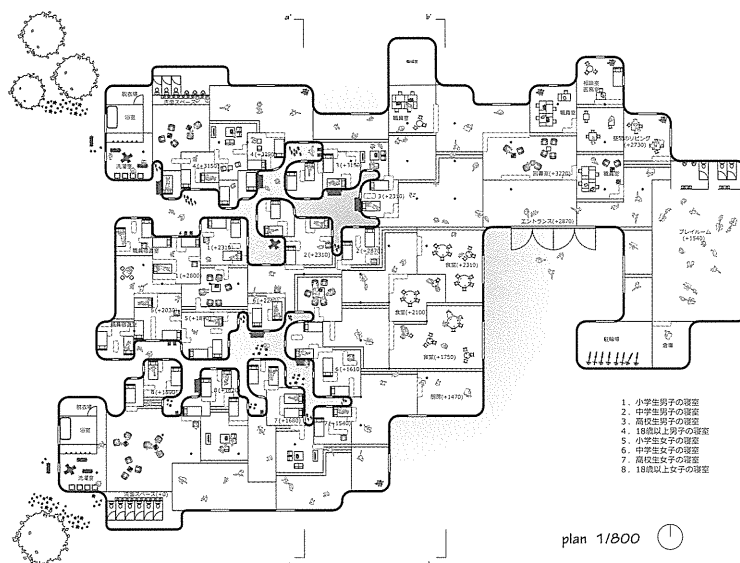


50個のHomeからなるHouse

ヒトとのキヨリ感到過敏になり  
キヨリのとりかたがわからなくなってしまった

建築の形状  
内外の関係  
家具以上建築未満たち

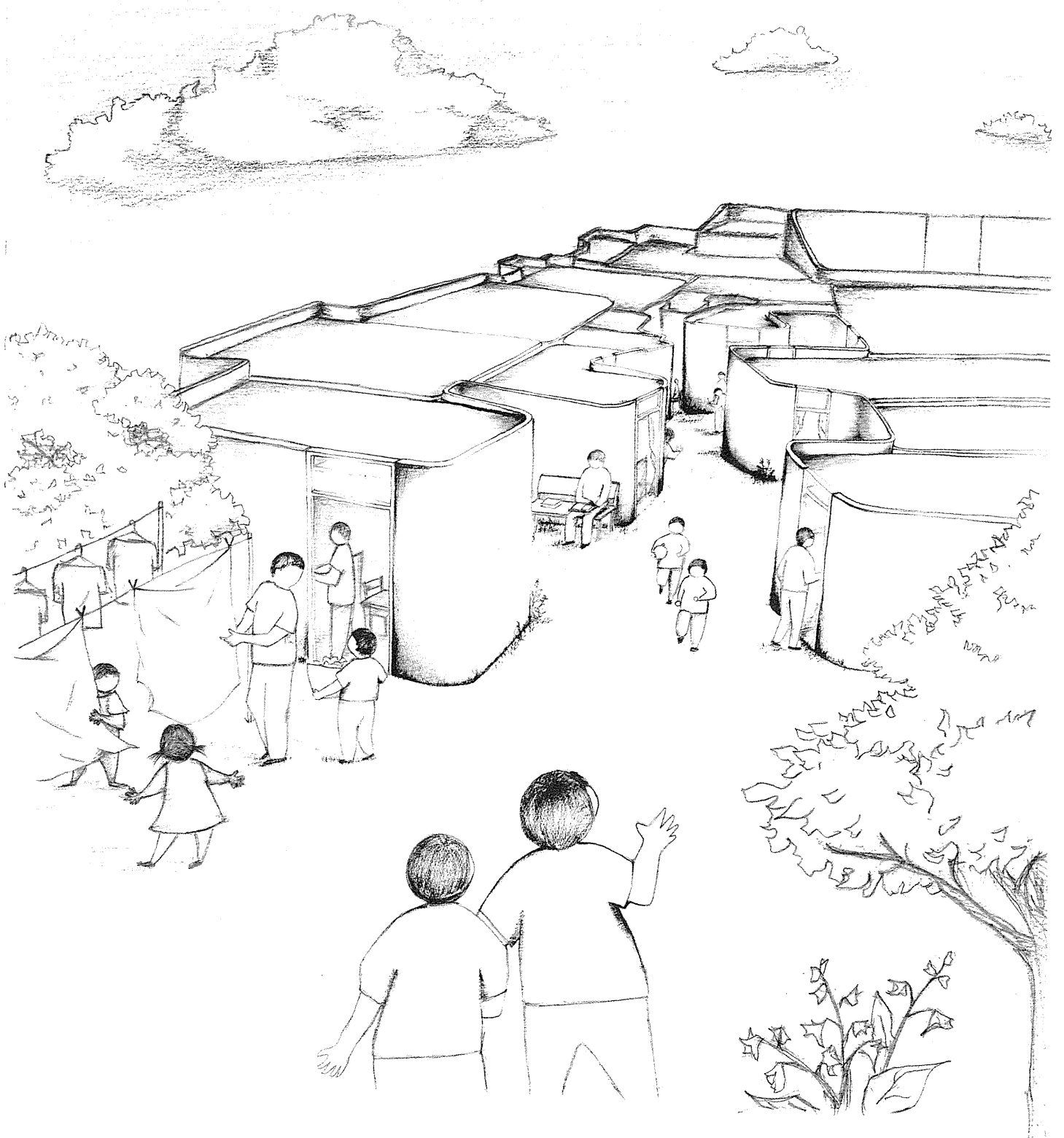
これらによって  
子供たちの  
人とのキヨリ感をたすけながら  
共に成長する



1. 小学生男子の居室
2. 中学生男子の居室
3. 高校生男子の居室
4. 18歳以上男子の居室
5. 小学生女子の居室
6. 中学生女子の居室
7. 高校生女子の居室
8. 18歳以上女子の居室

plan 1/800





そこにいるだけで、人を歌声で包むような建築  
ただただ人を祝福するような建築  
その美を愛でつつも、いつのまにかその存在が人を愛でるような建築

そんな建築があるように、おそらく、語りかけるような建築がある。  
それが何を語るかは、人がその建築になにを語りかけるかということと決して無関係でないにしても、ここでは、一人の設計者として、大いに想像力の翼を広げ、以下の如き建築を構想せよ。

まるで独白するような建築  
まるでつぶやくような建築  
まるでささやくような建築  
まるで告げるような建築  
まるで表明するような建築  
まるで宣言するような建築  
まるで沈黙をかたるような建築  
・  
・  
・

21世紀を迎えて、大量生産・大量消費を基調としたデザインが行き詰まり、環境や社会の制約条件などを考慮して、幅広い要求を質的に満足するデザインへの転換が求められている。そこでは、デザインを「人間と環境との関係に変化をもたらす」営みとして理解し、個々の人工物のデザインにとどまらず、人工物相互の関係や人工物と環境・人間との関係に配慮することにより、豊かな環境・社会システムをデザインすることが求められている。

都市の中の建築は、他の人工物や人間・環境とのネットワークを形成する結節点として存在する。このスタジオでは、「都市と建築」のダイナミックな関係に焦点を結び、京都という都市をフィールドとして、ミクロな建築レベルの環境のデザインを通して、マクロな都市レベルの環境をデザインする可能性を探求する。具体的には、歴史都市・京都の都市空間に「魅力的な場所と風景を創発する新しいタイプの建築（の集合）」を提案する。

#### フォームとデザイン

フォームとは人間の行為や活動のために切り開かれた空間や場所の本質であり、デザインとはそうした空間や場所に雰囲気や表情をもたらすものである。こうした観点から優れた建築作品を考察し、そのうえで現代に応答する建築のフォームとデザインを構想する。

#### Phase1：作品分析

ビルディングタイプを決め、その優れた事例を5つ選択する。  
5作品のうち、一つは現代建築、一つは古典建築とする。  
選んだ作品について、フォームとデザインを分析する。

#### Phase2：設計

各自敷地を定めて、設計をおこなう。Phase1の分析成果を活かし、フォームとデザインを考える。